

令和5年度学校自己評価表

鳥取県立米子東高等学校定時制課程

学校ビジョン	未来を拓く人財の育成		今年度の重点目標	1 自己実現に向けた教育の充実 2 豊かな人間性の育成 3 社会人としての意識の高揚 4 働き方改革の推進
中長期目標	1 人間理解のできる生徒の育成 人間の強さや弱さ、尊厳を深く理解し、自分と異質のものの存在を認めながら、共に関わり共に生きる共生の精神を持つ生徒を育成する。 2 課題意識のある生徒の育成 知的好奇心、科学的探究心と課題解決能力を育て、自身や社会に常に意識を持って自主的・積極的に学習し、自らの成長と社会への貢献を志す生徒を育成する。 3 自己表現のできる生徒の育成 他人の意見に対しては率直に受け止め、自分の意見を論理的に明確に表明できるコミュニケーション能力を持った生徒を育成する。			

評価項目	具体項目	年 度 当 初			最 終 評 価	
		現 状	具 体 目 標	目 標 達 成 の た め の 方 策	経 過 ・ 達 成 状 況 ・ 改 善 方 策	評 価
1 自己実現に向けた教育の充実	主体的な学びによる基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> ○授業評価アンケート「わかりやすい」96.6% 「先生の熱意を感じる」97.1% ○米東サポーター・特別支援教育支援員の配置により、落ち着いた学習環境を保っている。 ○授業でのICTの効果的な活用に努めた。 ○ルーブリックを活用した授業実践を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○わかる授業を推進 授業評価アンケート「わかりやすい」90%以上 「先生の熱意を感じる」90%以上 ○生徒の目標に応じた学習指導 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業公開および授業評価アンケートを活用した授業改善 ○各教科でのルーブリックの活用とパフォーマンス評価の実施 ○ICTの効果的な活用・ICT活用研修会 ○米東サポーター・特別支援教育支援員の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業評価アンケートは、「わかりやすい」98%、「先生の熱意を感じる」98%であった。 ○ルーブリックを活用した授業実践とパフォーマンス評価を導入し、ペーパーテストでは測れない生徒の能力について評価するように努めた。 ○ICT機器を活用した授業が増加した。また、「ICT活用研修会」を実施した。 ○特別支援教育支援員・米東サポーターによる授業サポートを計画的に実施した。 	A
	特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○SCによる個人面談を実施し、生徒への適切な対応に繋がっている。 ○生徒理解研修会、QU研修会、夕礼・終礼等で、生徒の状況、対応について職員間で共有し、必要に応じてケース会議も行っている。 ○外部機関と連携し、生徒の進路選択・進路決定に向けて、サポートを行っている。 ○不登校傾向の生徒について、SCによるコンサルテーションを実施したほか、SSWや市の子育て支援課と連携し、支援に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教育相談体制、特別な教育的支援を必要とする生徒への支援の充実 ○教職員の特別支援教育に対する意識の向上 ○特別支援教育支援員の有効活用 ○要支援の生徒の情報共有 	<ul style="list-style-type: none"> ○全職員による生徒情報の共有並びに支援 ○特別支援教育支援員、SC、SSW、米東サポーターとの連携 ○QUの有効利用 ○特別支援教育支援員の支援活動計画の作成 ○特別支援教育に関する研修を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒情報交換会、ハイパーQU研修会を実施するとともに日々の夕礼、終礼で、生徒情報を共有し、支援に役立てた。 ○SSWの月2回の定期訪問に合わせて、SCと支援部、担任でのケース会議を行い、関係機関とも連携して生徒支援にあたった。 ○特別支援教育支援員・米東サポーターがきめ細かに生徒の実態把握に努めており、それを職員に還元して指導に役立てている。 ○特別支援教育に関する研修を9月に実施し、2学期にも実施する予定。 	A
	進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○3年次生に対し、継続的にCAによる個人面談を実施した。 ○面接練習や個別指導等に全教職員が関わった。 ○就職・進学ともに進路決定できない生徒がいた。 ○就職セミナー、地元企業・学校見学、進路説明会を実施した。 ○2・3年次生進学希望者に業者テストを実施した。 ○保護者懇談では、進路選択・進路決定に向け早い時期からの意識づけに努めた。 ○進路だよりを発行し、保護者に進路情報を伝えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○就職内定率及び進学決定率100% ○就職指導、進学指導の充実 ○進路意識の醸成 	<ul style="list-style-type: none"> ○LHR、進路講演会、個人面接による就職・進学に対する心構えの徹底指導 ○就職セミナー、地元の企業・学校見学の実施 ○CAによる進路指導講話、進路面談の実施 ○保護者への進路情報の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○就職希望者4名中4名が内定、進学希望者5名中4名が合格している。 ○3年次生は就職・進学に向けての知識や面接等のマナーを、1・2年次生についてはキャリア・プランニングに関わる基本的な考え方を中心に学習した。 ○面接における自己アピールのコツや、地元の学校や企業の現場を訪れての体験的な学びを通して、生徒のキャリア意識を高めることができた。 ○面談の内容の共有などを通じて、学年、進路指導部、CAで連携して指導を行うことができた。ハローワークと連携した就職指導も効果的であった。 ○志望理由書・履歴書の記入や面接練習を多くの教員が協力して進めた。 	A
	キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリア・パスポートを作成させ、講演会、様々な学習機会を捉え記録を残して活用した。 ○地元企業・学校見学を通して、生徒自身にキャリアデザインについて考えさせた。 ○生活時間調査の実施によって、進路意識を高め、生活習慣を見直すことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○進路意識の早期啓発 ○キャリア意識の醸成 	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリア・パスポートの活用 ○行事、講演会を通じた生徒自身のキャリア意識の醸成 ○地域の問題について、考える機会をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒は講演会、LHR等の様々な場面で、キャリア・パスポートに気づきや感想を記録した。今後は記録する内容がより深まるように指導する。 ○「社会人に学ぶ」や「語り人@勝田町」、「地元の事業所・学校見学」を通して、進路意識を高めることができた。 	B

2 豊かな人間性の育成	生徒会・部活動の活性化	○鳥取県定時制通信制総合体育大会・鳥取県生徒会連盟大会に向けて、各部活動顧問と連携し、円滑な部活動運営を行った。 ○生徒会執行部では、生徒が主体的に行事の企画運営を行った。 ○生徒の活動を学校だよりや学校HPで伝えた。	○生徒会活動や部活動、学校行事への生徒の主体的な取組の推進	○生徒の主体的な活動の機会を増強 ○学校HPの更新回数を増やす ○生徒会活動の推進	○定期的に執行部を開き、生徒が主体的に行事の企画・運営を行った。Google Classroomを有効に活用して、生徒会役員との連携を図った。 ○生徒会執行部を中心に大運動会の企画・運営を行った。初めてグラウンドで開催できた。アンケートの結果も「企画を楽しめた」という好意的な意見が94%であった。 ○県定通総体や県生連大会に向けて、部活動週間を設定し練習に励んだ。各競技の結果は学校HPや米東だより等に掲載し、その活躍を報告した。	A
	興味・関心を喚起する体験的活動の実施	○コロナ禍においても感染症対策を講じ、アウトドア体験・地元の資源体験を実施した。 ○地元の資源体験は、新たに「松江散策」を実施した。	○地域に根ざした教育活動 ○体験的な活動による豊かな心の育成	○体験活動先との連携強化 ○新たな体験先の開拓 ○体験を通して、地域の魅力を伝える	○洋上体験を通して、魚釣り等の様々な経験を行い、自主性・自立性の構築に努めた。 ○行事そのものが苦手な生徒が一定数いるが、人との関わりを通して成長できるような内容を検討する。 ○芸術鑑賞や地元の資源体験を通して、郷土への興味と関心を深めることができた。	B
	人権感覚豊かな生徒の育成	○人権教育講演会を実施した。事後のLHRで生徒相互の理解が深まった。 ○人権LHRおよび授業において、話し合い活動を行った。	○人権LHRの充実 ○各領域での人権意識の育成 ○お互いが安心できる集団の形成	○人権LHRの実施 ○自他ともに尊重できる生徒の育成	○3年次生について、採用選考前に「公正な採用選考」について学習するLHRを実施した。 ○人権LHRでの話し合い活動で、他者の様々な意見に触れる機会を持った。今後は、より活発な意見交換ができるように人権LHRの内容を検討する。	B
	社会参画できる生徒の育成	○高等学校課事業や定通教育充実事業を通して、社会に対する理解を深めている。 ○授業や講演会等において、マナーについての理解を深めている。	○マナーを守り居心地の良い集団の形成 ○地域を理解し、地域の力になろうとする意識の育成	○生徒が人間関係づくりを学ぶ ○新たな事業による体験的活動の充実	○新しい事業である芸術鑑賞では、植田正治写真美術館を訪問して豊かな表現に触れた。 ○外部の人を招いて講演を実施し、人の話を聞く姿勢が向上した。また、講演後の感想をきちんと記入できる生徒が増えてきている。まだ十分に書けていない生徒も、個別に指導をして、自分の感じたことを文章にできるようにさせる。	B
3 社会人としての意識の高揚	規範意識の醸成	○多くの生徒が落ち着いた学校生活を送っている。 ○一部の生徒に規範意識の低さが見られるため、観察・指導を継続する必要がある。 ○職員間で生徒情報を交換、共有している。 ○挨拶をきちんとできる生徒がいる。	○落ち着いた教育環境の維持 ○問題行動発生件数3件以下 ○皆勤及び精勤10名	○挨拶の励行、生徒への日常の声かけの実施 ○規律ある学校生活の徹底 ○教職員間の情報交換の実施 ○保護者との連携	○問題行動件数2件。生徒指導を徹底し、生徒は落ち着いて学校生活を送っている。 ○出席することに意識が希薄な生徒がいる。学校規則の遵守について丁寧に指導する。 ○生徒について、教職員間で情報交換を密に行い状況の把握に努めた。	B
	家庭との連絡の緊密化	○欠席や遅刻について、学校に連絡する習慣が身に付いており、無断欠席はほとんどなかった。 ○担任を中心に、こまめに家庭連絡を行った。 ○挨拶や言葉遣いに対して、意識の高い生徒がいる一方で、スマートフォンが手放せない生徒もいる。	○欠席の多い生徒に対する支援 ○保護者の学校理解を促進	○こまめな家庭連絡 ○特別支援部・保健部との連携 ○保護者面談の実施 ○学校HP等による学校の教育活動の発信	○こまめな家庭連絡を継続し、無断欠席については、昨年度より減少した。 ○生徒の学校での様子について保護者へ連絡を行うほか、不登校傾向の生徒については定期的に家庭連絡を行い、家庭と学校とのつながりの継続に努めた。 ○けじめあるスマートフォンの利用ができています。	A
	[体]育、[食]育の推進	○定時制夜間給食や「食」のアンケート、「食」の講演会において「食」に対する理解を深めている。 ○鳥取県定時制通信制総合体育大会、鳥取県生徒会連盟大会、生徒会企画定時制大運動会を実施した。	○生徒の健康に対する意識の向上 ○生徒の日常生活習慣の改善	○「食」のアンケートの実施 ○生活時間調査の実施 ○定時制夜間給食の実施	○生活習慣に関するアンケートを年間3回実施した。 ○アンケート結果を教職員間で共有した。また、保健だよりや保健指導を通して生徒や保護者に結果や課題について伝えた。 ○保健指導を各学年と全体に対し、保健体育の教科や図書館、栄養教諭等と協力し実施した。その結果、朝食を食べる生徒が5割から7割に増加した。	A
	よりよい学習環境の整備	○ゴミの分別に取り組んでいる。 ○清掃活動は主に7月・12月・2月に実施した。 ○学習室のゴミ箱を生徒自ら管理させ、ゴミは各自で持ち帰る指導を行った。 ○通常は生徒が当番制で、行事の日は教職員が一斉に使用教室の消毒を行った。	○校内環境の整備 ○HRの時間に生徒と教員で清掃活動	○ゴミの分別や減量化についての指導の実施 ○清掃活動の継続	○環境衛生検査を実施した。 ○清掃月間でのHRにおいて、生徒の利用する教室の清掃を行い、環境美化に努めた。その中でゴミの放置が散見されるので、ゴミの持ち帰り・分別を粘り強く指導していく。 ○「総合的な探究の時間」において、学習椅子の騒音対策に向けた活動が行われ、学習環境の整備ができた。	B
4 働き方改革の推進	業務の効率化	○コロナ禍にあったが、実施時期や実施内容を再検討してできる範囲で実施した。 ○主査と副査とが連携しながら分掌業務を行っている。 ○長期休業中は夕礼・終礼を行わない期間とした他、リフレ週を設定した。 ○教育目標の達成を目指し、全教職員が連携している。	○円滑な業務の遂行 ○時間外業務の軽減	○計画的な事業の実施 ○分掌内における業務分担の見直し ○分掌内のフォルダ、ファイルの整理	○学事支援システムの導入により、成績処理にかかる時間を大幅に削減できた。 ○計画的に業務にあたり超過勤務は始業時間前に短時間ある程度である。 ○分掌のフォルダ、ファイルを年度内に整理して、来年度の業務引継ぎに役立てる。	A

評価基準 A：十分達成した B：概ね達成している C：取り組みはやや遅れている D：方策の見直しが必要